

ゴールドラッシュの再来!? AI時代突入から見える半導体市況の変化

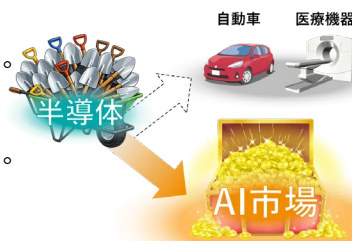
1849年、アメリカのカリフォルニアで起きたゴールドラッシュ。人々は金を求めて殺到したが、最も価値を生んだのは**金ではなく金を掘るための『道具』スコップ**だった。

そして今、世界ではAI市場というゴールドラッシュが起きている。そのAIを動かすために必要な**『道具』**にあたるのが**『半導体』**だ。

世界が半導体を求める中、**成長市場であるデータセンターへの供給が優先**されている。

一方、日本の主力産業である自動車、産業機器、医療機器は供給不足や価格上昇、さらにはEOLというリスクに直面している。

AI革命の恩恵が注目される中、その裏側で起きている半導体市況の構造変化を理解することが、今多くの企業に求められている。



AI市場に半導体が流れ
成熟市場には半導体が流れない

今回視聴したウェビナ

半導体技術マーケティングに40年以上携わっているBHオフィス 大幸様 × リョーサン菱洋株式会社主催のウェビナを視聴した。ウェビナの中で、AI向け半導体への需要集中が進むなか、日本の主力産業は供給不足や価格上昇、EOLリスクという課題に直面している。半導体市況の構造変化を読み解きながら、調達・設計戦略の方向性を示した内容であった。日本企業は今後どうすればいいのか、変化に慎重な日本が“変革”をするためのヒントが語られた1時間であった



【登壇者】

(左から) BHオフィス 大幸秀成氏、リョーサン菱洋株式会社 セールスプロモーション部 朝比奈 知春氏

AI時代に問われる日本企業の半導体戦略

日本の半導体市場シェアは直近3.9%と低減しており、原因は日本の弱みである先端SoCへの半導体需給が増加したことである。この現状を打開するために短期的には在庫係数の見直し、中期的には長期供給契約の締結、そして長期的にはカスタムIC化と設計変革が必要であると語られた。重要なのは市況を予測することではなく、市況変化に耐えられる調達や設計、事業構造を変革することである。

短期的対策

在庫係数の見直し



不足・遅延リスクを足元から守る

中期的対策

長期供給契約の締結



供給の安定化とコスト変動の緩和

長期的対策

カスタムIC化と設計変革



自社設計を新しい在り方へ変革

まとめ

- 情勢に左右されやすい半導体市況。日本企業に求められるのは市況の予測だけではなく、供給不足・価格上昇の変化に対応しうる事業構造を構築することだ。
- 半導体不足は「調達課題」として捉えるのではなく、設計・開発を含む業務に携わるすべての人にとっての重要な課題である。経営層は社会動向と自社の現状を踏まえ、変化の先を見据えた次の一手を打つ必要があると考える。

ウェビナ視聴・編集：山田勇次

お問い合わせ先

リョーサン菱洋株式会社 セールスプロモーション部

リョーサン菱洋テクノラボ 編集長 山口功一郎 (ko.yamaguchi@rers-grp.com)